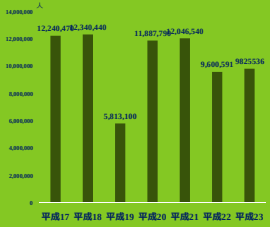
地域資源を活用した地域創生のモデルづくりを目指して
～学生の力を活かした地域活性プロジェクト～
-新潟大学 村山研究室-

背景 ～温泉・観光・健康産業の今～

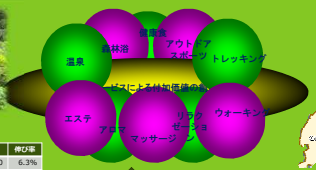
温泉・健康観光客推移
（新潟県平成17年～23年）



余暇市場支出の推移　単位：億

部門	H21年度	H22年度	伸び率
趣味・創作	102,430	108,840	6.3%
娯楽	457,130	435,610	-4.7%
スポーツ	40,700	40,150	-1.4%
観光・行楽	94,240	95,150	1.0%
合計	694,500	679,750	-2.1%

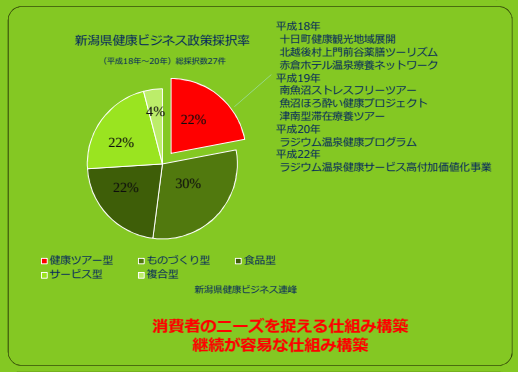
新潟県観光統計情報



健康サービス産業の可能性

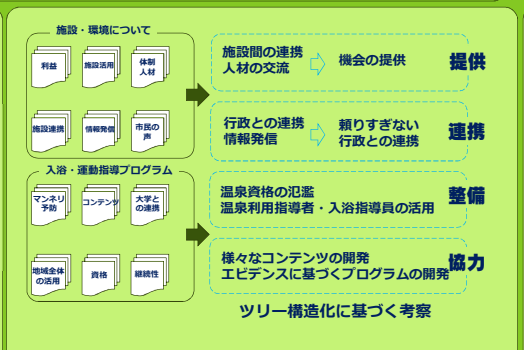
推計値	2001年	2010年
市場規模	12兆円	20兆円（1．6倍）
雇用者数	200万人	300万人（1．5倍）
医療費推計	30兆円	38兆円（厚労省推計42兆円）
健康増進活動等の推進による医療費抑制効果		▲4兆円（約1割抑制）

保養地モデルの事例（新潟県）



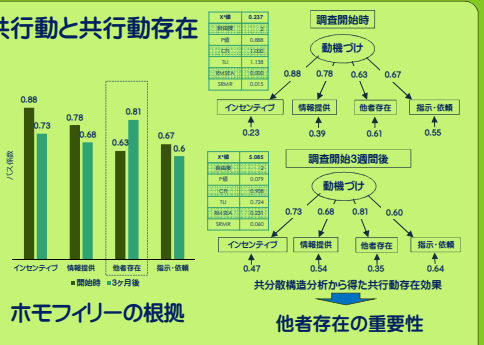
消費者のニーズを捉える仕組み構築
継続が容易な仕組み構築

これまでの取り組み



ツリー構造化に基づく考察

共行動と共行動存在



ホモフィリーの根拠　　他者存在の重要性

目的

カード構造化法によって抽出されたキーワード

提供　連携　整備　協力

時間・場所・人材確保、コメディカルとの異業種連携　有資格者の整理　知識や技術の共有

同意識集団形成（ホモフィリー）の検証

～集団形成対象者～
医師、保健師、管理栄養士、健康運動指導士、温泉利用指導者
～集団形成の特徴～
異業種連携、同意他社
～実施方法～
・県民を対象の健康づくりイベント
・行政による協賛

相互作用・ホモフィリーが目的達成に重要

小千谷市（新潟大学）2014～

産学連携交流会

これまでの運動機能解析のノウハウを企業とどのように連携できるかを考える機会となりました。ここからトレーニング機器開発などへの取り組みが始まりました。

南魚沼市（明治大学・新潟大学）2015～

大学生の力を活かした地域集落活性化事業

明治大学との共同研究であり、平成の湯治を復活させようと応用健康科学チームとマーケティングチームに分担して取り組んでいます。
本事業は新潟県の研究助成を受けての取り組みです。

阿賀町（筑波大学・法政大学・新潟大学）2015～

地域資源活用を目指した阿賀町プロジェクト

温泉など地域資源を活用した地域活性化プロジェクトです。写真は筑波大学、法政大学、新潟大学の交流会を実施した時の様子です。
健康維持増進をテーマにした研究機関の交流拠点としていきます。

実行するための共行動存在

Facilitator:ファシリテーター
Leader:リーダー
Follower:フォロアー

実行するための思考

実行するための情報整理

- フレームセッティング
- アジェンダセッティング
- ルールセッティング
- シナリオ・オプションの検討
- ケイパビリティの検討
- プライオリティセッティング

地域力で日本を元気に！
地域のモデルを全国に発信しよう！